いのちの岐路に立つ

核を抱きしめたニッポン国

●被爆・被曝者らが迫る

「核が問いかける 戦後日本の隠された真実」とは何か―

広島・長崎への原爆投下からフクシマまでを辿ると、「核を抱きしめたニッポン国」の輪郭が浮かぶ。
反核運動の分裂を経て、屈折した核をめぐる歴史に「平和」の内実を問い、融合・和解の道を探る。
8月6日夕刻、「安らかに眠れません　核兵器廃絶の日まで　全原発廃炉の日まで」と記した"とうろう"が広島・元安川の川面を流れていく……。

長編ドキュメンタリー映画
「続・シロウオ」完成公開！

いまや、放射線危険管理区域マークが日本列島におおいかぶさっている。保守・革新やイデオロギー、老若男女を問わず、だれもが「いのちの岐路」に立つ。
"黒い雨"や"白い粉"の「死の灰」に恐怖しつつ逝った人びとへの鎮魂と核社会に生きとし生けるものへのメッセージ。

■監督：原村政樹　■プロデューサー：矢間秀次郎
■撮影：一之瀬正史　原村政樹　■録音：金田弘司
■音効：徳永由紀子　■録音スタジオ：㈱モイ　■語り：中村敦夫

■**開催日**：2018年 **4月22日**（日）
（「さよなら原発まつり」ポスト企画で同日3ヵ所上映）
■**会　場**：
① **10：00～、JAふえふき富士見支所2Fホール**
（笛吹市：055-262-2158）
② **14：00～、山梨県立図書館多目的ホール**
（甲府市：055-255-1040、矢間プロデューサーがアフタートーク予定）
③ **18：30～、生涯学習センターこぶちさわホール**
（北杜市：0551-42-1495）
■**入場料**：前売券 **1,000円**　当日券 **1,200円**
■**主　催**：みどり・山梨（代表　野沢今朝幸）
■**後　援**：さよなら原発まつり実行委員会
■**問合先**：TEL&FAX 055-252-0288（川村）

いのちの岐路に立つ

核を抱きしめたニッポン国

原爆の子の像

あの福島第一原発事故から6年。避難地域の解除が進む中で、放射能の「緩慢なる脅威」がひろがり、原発崩壊が故郷崩壊につながっていく。"唯一の被爆国"を喧伝して敗戦72年を迎えた。ヒロシマ・ナガサキの被爆死者214,000人。ビキニ水爆実験による船員たちの被爆、原発労働者の被曝がつづく。なぜ、原発再稼働にこだわり、核による厄災を繰り返すのか。いのちの岐路に立つ人間として、覚悟が問われている。

かつて「原発立地を断念させた町」でバイブルになった『原発黒書』(1976年・原水爆禁止日本国民会議発行)には、放射能汚染の実態をふまえ、「想像を絶する最大想定事故」が、まるで福島第一原発の過酷事故をなぞるように「冷却材喪失事故の進行過程」をメルトダウン、水素爆発等を生死刻々の迫真力で記している。

『原発黒書』

長崎原爆投下

第五福竜丸展示館

炉心被曝労働者現場

「原発立地を断念させた町」阿南市椿湾

「主な出演者」

堀江 壮
「伊方原発運転差止広島裁判」原告団長、広島の被爆者。

伊藤 正雄
「伊方原発運転差止広島裁判」原告副団長、広島の被爆者。

大石 又七
第五福竜丸の乗組員として操業中、ビキニ環礁での水爆実験に遭遇し被爆。『死の灰を背負って』新潮社ほか著書多数。

椋本 貞憲
徳島県阿南市の「蒲生田原発」建設阻止のリーダー、元阿南市市議会議員(6期)。

太居 雅敏・英征 親子
阿南市椿泊の漁師。

藤本 陽一
世界中の科学者たちの調査・研究をもとに、『原発黒書』を監修。元東大原子核研究所教授、早大名誉教授。

西岡 洋
長崎で被爆。学生時代に画家・丸木位里、俊の「原爆の図」巡回展にかかわる。

樋口 健二
日本写真芸術専門学校副校長、43年間、原発労働者たちの被曝を追い続ける。『原発被曝列島』三一書房ほか著書多数。

梅田 隆亮
敦賀原発等の労働で被曝し福岡高裁で法廷闘争中。

加藤 哲郎
一橋大学名誉教授、元早稲田大学客員教授。

関 千枝子
旧制女学校2年生のとき広島で被爆。フリーのジャーナリスト。元毎日新聞、全国婦人新聞等の記者。『ヒロシマの少年少女たち 原爆、靖国、朝鮮半島出身者』彩流社ほか著書多数。

●原村政樹監督メッセージ

映画製作の方向性 ～核から見える日本の戦後史～

この映画の監督をとの依頼があった時、即座に頭に浮んだことは、核(原水爆と原発)を軸に、日本の戦後史を描いてみたいということだった。そして、撮影対象者の方々が皆、個性豊かで魅力的な人たちばかりで、「良い映画が出来る」との確信を持った。

一方、人物の魅力に寄りかかってばかりの映画では、最初に考えた戦後史を的確に表現できない。ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマという歴史の流れの時間軸を縦軸にしつつ、登場人物それぞれの人生を横軸にした作品を構想した。さらに過去の歴史を紐解くばかりではなく、現在進行している現実をしっかり描くことに力点を置いた。それはとりもなおさず、過去・現在・未来へと繋がるダイナミックな日本社会の実相に迫りたいという想いからであった。登場人物やスタッフ、そして多くの応援してくださる方々の力があってようやく完成させた作品である。

●矢間秀次郎プロデューサーメッセージ

"種蒔く人"の出会い

かさこ監督「シロウオ～原発立地を断念させた町」2013年公開につづいて、プロデューサーを担当した。この5年間、企画を熟成させる取材を重ね、繰り返し現場に立つ。

原水爆実験等のトリチウム汚染(1985年の英国原子力公社疫学調査で有意な相関8·89倍公表)のためか、60代中半に前立腺ガンを患い全摘手術、生死刻々で「いのちの岐路」に向きあっている。

1995年に出会った瀬尾健著『原発事故…その時、あなたは!』風媒社刊が反原発にシフトを促し、『原発黒書～日本における原発推進の実態』1976年原水爆禁止日本国民会議刊との出会いが当映像作品に結実した。実に熟した種が宿っているだろうか。

本映画の上映会を開催してくださる方を募集しています。
貸出条件や上映会のお申込みについては、上映委員会·矢間までご連絡ください。

〒184-0012 東京都小金井市中町2-5-13
TEL·FAX:042-381-7770
E-mail:h-yazama@oregano.ocn.ne.jp